

➤ ファンタスティックムーン (FANTASTIC MOON) = ドイツ

牡4歳・鹿毛 (ドイツ産・2020年3月21日生まれ)

父：Sea The Moon = 母：Frangipani (母の父：Jukebox Jury)

馬主 : リバティレーシング 2021

調教師 : サラ・シュタインベルク

騎手 : レネ・ピーヒュレク

戦績 : 全14戦7勝、2着3回、3着1回

総獲得賞金 : 約1億3,440万円

主な戦績 : '24 バーデン大賞 (G1) 1着
'23 独ダービー (G1) 1着
'24 バーデン経済大賞 (G2) 1着
'23 ニエル賞 (G2) 1着
'23 独ダービートライアル (G3) 1着
'22 ヴィンターファヴォリテン賞 (G3) 1着
'23・24 バイエルンツホトレネン (G1) 2着

ドイツの共有馬主団体であるリバティレーシング 2021 が所有するファンタスティックムーンは、2021年9月のBBAGイヤリングセールで、4万9,000ユーロ(当時約620万円)で落札されました。

父のシーザムーン(その父シーザスターズ)はデビュー4連勝で独ダービーを優勝、その後バーデン大賞2着を最後に引退し、イギリスで種牡馬として供用されています。主な産駒にはコロネーションステークス(G1)のアルパインスター、コーフィールドカップ(G1)のダーストン、独オークス(G1)のムスコカなどがいます。母のフランジパニ(その父ジュークボックスジュリー)はドイツで1勝。近親にはドイツや北欧で活躍した馬が目立っていて、フィアレスハンターはノルウェーで重賞勝ちを含む7勝、ドイツのリステッド競走など7勝のファブリアノは種牡馬になっています。母系を遡ると4代母のフリーリングスタグは仏1000ギニー(G1)2着馬、6代母のダラマは繁殖牝馬として日本に輸入され、その孫には優勝牝馬優勝のノアノコブネがいます。また、近親には、仏ダービー、英・愛チャンピオンステークスとG1・3勝を収めたアルマンゾルもいます。

ファンタスティックムーンのデビューは2歳時の9月、ミュンヘン競馬場で行われた未勝利戦(芝1,400m)。ここは重馬場でしたが、5頭立ての3~4番手から残り100mで抜け出して優勝、2戦目に重賞のヴィンターファヴォリテン賞(ケルン、G3、芝1,600m)に挑むと、ここも3~4番手から外に持ち出されながら直線半ばで先頭に立ち、半馬身差で重賞初制覇を飾りました。

3歳初戦となった5月のバーバリアンクラシック(ミュンヘン、G3、芝2,000m)は直線で一時は先頭争いに加わりましたが、勝ったミスターハリウッドに引き離されて7馬身半差の3着に終わりました。しかし、中2週で臨んだ独ダービートライアル(バーデンバーデン、G3、芝2,000m)では2~3番手から最終コーナーを前に先頭に立って、最後は2着に4馬身半差をつけ、クラシック候補に浮上しました。

迎えた独ダービー(ハンブルク、G1、芝2,400m)は20頭立ての3番人気で、外枠の16番枠から出たファンタスティックムーンは後方で折り合って最終コーナーを回りながら進出を開始。直線では外ラチ沿いに持ち出され、内の経済コースを走ったミスターハリウッドを鮮やかに差し切って2馬身1/4差で優勝、ドイツ3歳馬の頂点に立ちました。父シーザムーンの独ダービー制覇を彷彿とさせるレースぶりだったことに加え、シュタインベルク調教師が女性調教師初となる独ダービー勝利となったことなど話題の多い一戦となりました。

独ダービーから4週後に行われた古馬混合のバイエルンツホトレネン(ミュンヘン、G1、芝2,000m)では、3月のドバイターフ3着馬で、イギリスから遠征した古馬のネーションズプライドを相手に4番手からこれに迫ろうとしましたが、最後は突き放されて3馬身差の2着となりました。陣営は秋の凱旋門賞も視野に入れつつも、9月のバーデン

大賞(バーデンバーデン、G1、芝 2,400m)を選びましたが、散水で馬場が軟らかくなったのを見た陣営の判断で回避を決定。代わってフランスの凱旋門賞トライアル・ニエル賞を目指すことになりました。

7 頭立てとなったニエル賞(パリロンシャン、G2、芝 2,400m)では道中好位の 2 番手を追走、フォルストレートを過ぎて先頭との差は 10 馬身近くありましたが、直線に入ってエンジンがかかると、その差は一気に縮まって残り 250m で逆転、最後方から追撃したフィードザフレームに 2 馬身半差をつけて優勝しました。続く凱旋門賞は中団後方の 10 番手あたりに構えましたが、直線で追い出されたものの残り 200m では伸びを欠いて、勝ったエースインパクトに 6 馬身 1/4 差の 11 着で入線。この時、4 着だった日本のスルーセブンシーズからも 3 馬身余り遅れました。これで 3 歳戦を終えましたが、この年はドイツの年度代表馬に選出されました。

4 歳になった今年はホッペガルテン競馬場で 3 月 31 日に行われたダールヴィッツ賞(リステッド、芝 2,000m)から始動、ここは 5 頭立てで勝ったミスターハリウッドに 1 馬身半差の 2 着でした。続くガネー賞(パリロンシャン、G1、芝 2,100m)は 9 頭立ての 5 番手を追走し、重くなった馬場に末脚を封じられて勝ったアヤザークから 6 馬身差の 9 着に敗退。しかし、約 1 ヶ月半の間隔をあけて向かったバーデン経済大賞(ケルン、G2、芝 2,200m)は良馬場で末脚が爆発、中団からともに伸びた 2 着ロールダノにクビ差をつけて 5 度目の重賞勝ちを飾りました。次いで、前年に続いて出走したバイエルンツホトレネンは直線で早めに抜け出したフランス調教馬カリフに 1 馬身届かずの 2 着でした。

その後、9 月のバーデン大賞に駒を進めたファンタスティックムーンは 6 頭立てのしんがりを進み、最終コーナーで大外に持ち出されると、程なくして先頭へ。猛追するドバイオナーに 1 馬身 1/4 差をつけて優勝。前年の独ダービーに続く 2 度目の G1 勝ちを飾りました。その後、2 度目の挑戦となった凱旋門賞は陣営の願い叶わず重馬場となり、中団から伸びずにブルーストッキングから 9 馬身半遅れた 9 着に終わりました。(12 着のシンエンペラーには 2 馬身半先着)

ここまでの通算成績は 14 戦 7 勝で、芝 2,400m では 5 戦して 3 勝。左回りは 6 戦 3 勝、2 着 2 回、3 着 1 回。良馬場では 4 戦全勝、稍重でも 4 戦 2 勝、2 着 1 回ですが、重・不良では 6 戦 1 勝、2 着 2 回、3 着 1 回とやや苦戦が目立っています。芝 2,400m のベストタイムは昨年凱旋門賞で記録した 2 分 26 秒 4(稍重馬場)となっています。11 月 10 日までのワールドベストレースホースランキングではレーティング 120 で世界 27 位タイ、芝の L 部門(2,101m~2,700m)ではゴリアット(125)、レベルスロマンス(123)、ブルーストッキング(122)、ローシャムパーク(122)、ブローザホーン(121)に次ぐもので、日本のダノンデサイル、シャフリヤール、シンエンペラーと並んでいます。



2024 年バーデン大賞
(Photo: Marc Rühl)

● 馬主：リバティレーシング 2021 (Liberty Racing 2021)

リバティレーシングは、ラース・ヴィルヘルム・バウムガルテン氏、ナディーン・シープマン氏によって設立されました。

リバティレーシングでは、独ダービー及び独オークス制覇を目標にセリで購入した複数の 1 歳馬に対して会員が出資し、3 歳シーズン終了まで共有する形式を取っており、リバティレーシング 2021 では本馬を含む牡馬 3 頭と牝馬 1 頭が、一口 25,000 ユーロで 22 口募集されました。なお、会員の過半数の投票により、共有馬のうちの 1 頭の所有権を 1 年間延長することが可能で、本馬は 4 歳の今年もリバティレーシング 2021 の名義で現役を続けています。

本馬以外のリバティレーシングの活躍馬には、今年の独ダービーを制したパラディウム、イタリアでリステッド競走 2 勝、伊ダービー 2 着、独ダービー 4 着のウイニングスピリットがいるほか、アシスタントは 3 歳時にリステッド勝ち、独ダービー 4 着で、翌年も所有権を延長されてカールヤスパース賞、ハンザ大賞と 2 つの G2 を制し、バイエルン大賞 2 着、ベルリン大賞 3 着と G1 でも好走しました。

なお、代表のバウムガルテン氏は新興企業や不動産に投資を行う実業家としての本業を行う傍ら、競走馬の生産や馬主としての活動も行っており、現在はドイツ馬主・生産者協会の役員を務めています。

● 調教師：サラ・シュタインベルク (Sarah Steinberg)

1988 年 1 月 29 日生まれ。競馬とは無縁の家庭で育ちましたが、小さい頃にポニー牧場で休暇を過ごしてから馬に興味を持つようになり、ケルンのアンドレアス・トリブル厩舎で見習いとなって、騎手として 19 戦 2 勝の成績を残しました。その後は、同厩舎をはじめ、ペーター・シールゲン、マルクス・クルーク、イェンス・ヒルシュベルガー(ゴリアットの父アドラーフルークを管理)といった各厩舎で調教に携わりました。その傍ら、馬管理の修士号を取得し、引退するウォルフガング・フィゲ調教師のミュンヘンの厩舎を引き継ぐ形で、2016 年に調教師としてのキャリアをスタートさせました。

ドイツでは毎年 15~20 頭程度の管理馬を出走させており、最初のシーズンとなった 2016 年は 3 勝で、ここまでのキャリアハイは 2022 年の 11 勝(勝利数順のリーディング 33 位)です。初めての重賞タイトルはフランスで挙げた 2016 年のヴィシー大賞(ナイトウィッシュ)、初 G1 タイトルは 2022 年のバーデン大賞(メンドシーノ)で、昨年には本馬で独ダービーを優勝。女性調教師によるバーデン大賞及び独ダービー制覇はそれぞれ初めてのことでした。その他、主な管理馬としては、ミラノ大賞、フェデリコテシオ賞(ともに G2)のナイトミュージック、バーデン経済大賞(G2)など重賞 5 勝のクエストザムーン、独 2000 ギニー(G2)のフィアレスキング、貯蓄銀行金融グループ賞(G3)2 勝のウェイキースターなどがいます。

今年は 11 月 14 日現在、本馬によるバーデン経済大賞、バーデン大賞、クエストザムーンのドイツ統一賞(G3)など、38 戦 10 勝でリーディング 29 位となっています。管理馬の日本出走はこれが初めてですが、2022 年にメンドシーノが香港ヴァーズ(競走中止)に出走しています。

● 騎手：レネ・ピーヒュレク (Rene Piechulek)

1987 年 4 月 24 日生まれ。旧東ドイツのデッサウ出身で、父はボクシングの同国チャンピオンであったため、自身もボクシングを始めましたが、体重が軽すぎたためその道を断念。地元職業センターの職員の勧めで騎手を目指すようになります。2007 年にデビュー。同年に 47 勝を挙げてリーディング 9 位といきなりブレイクを果たし、2009 年には独ダービーにも騎乗(12 着)するなど順調にキャリアを歩みましたが、その後は怪我や一時的に軍に徴兵されるなど競馬から離れ、実家の運送会社を手伝っていた時期もありました。

しかし、騎手に復帰して 2011 年に 10 勝を挙げると、翌年からはレースに騎乗する傍ら、ドイツの名門シュレンダーハン牧場のトレーニング施設でも調教に携わるようになり、同牧場所有のイトウが 2015 年のジャパンカップに出

走した際は厩舎スタッフとして帯同。同牧場の所有馬に乗る機会は多くありませんでしたが、2015年は初重賞のフュールスマイル(G3)を含む42勝で9位とリーディングトップ10に返り咲きました。2017年に48勝で6位につけると、その年末にフィリップ・ミナリク騎手に誘われて、サラ・シュタインバルク厩舎を訪れる機会があり、それが縁となって同厩舎の主戦騎手となります。

2021年以降は毎年リーディング5位内に入り、ここまでの最高位は56勝を挙げた2023年の2位。初のG1タイトルは2020年のバイエルン大賞(サニークイーン)で、翌年にはバーデン大賞、凱旋門賞(ともにトルカータータツソ)、2022年にバイエルンツホトレネン(サンマルコ)、昨年はオイロパ賞(インディア)を優勝。シュタインバルク調教師の管理馬でもG1馬のメドシーノや本馬をはじめ、クエストザムーンなどで多くの重賞を制しています。今年の本馬やクエストザムーン以外でも、ロルダノでカールヤスパース賞、ハンザ大賞(ともにG2)、アレッシオでオレアンダーレネン(G2)を勝ち、11月14日現在、194戦41勝でリーディング3位となっています。

今年1月から3月にかけて短期免許を取得して、日本で初のレース騎乗を果たすと、ビザンチンドリームでのきさらぎ賞(GIII)を含む86戦4勝の成績を残しています。